

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所名から”fyれあい・見つめあい・支えあい・時の流れに逆らわず心のこもった見守りを”というホームの理念はご利用者、ご家族だけでなく地域の方々と共に暮らし続けていくことを目指してつくられている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、理念を毎朝の朝礼で確認しながら唱和し、実践することを心掛けている。また、月2回のミーティングの際にご利用者、ご家族、地域の方との関わりあいについて話し合いをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域のさまざまな行事に参加している。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所のかたからお花や、野菜をいただいたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り見学や敬老会などに参加し地域の方と過ごす時間をつくるようにしている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所としては自治会を通じて地域行事への協賛をしている。また、事業所や職員が地域での暮らしにお役にたつことがないか等運営推進会議の中で自治会長にお話して役立てることがあれば、その都度お話をいただくようにしている。		運営推進会議で今後の関わりかた等話し合いを継続して活動にむすびつけたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・リーダー・職員は、日常のケアを振り返り確認するために評価を行う事を職員に説明。全職員に配布し記入してもらい管理者がまとめ改善に取り組んでいる。	○	自己評価及び外部評価の結果をふまえて管理者のみならずし職員全員で改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者・ご家族・自治会長・市職員の方に参加していただき2ヶ月に1回開催している。参加者からはさまざまな立場からご意見やご質問をいただいている。	○	毎回同じご家族ではなく、交代でご参加いただけるように開催日時など工夫して呼びかけをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域交流の窓口になっていただいたり相談に対し助言をいただくなどしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市の社会福祉協議会より講師を招いての内部研修を行った。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	”虐待”ということがどのような事なのか内部研修等を通じて理解し、見過ごさないためにご利用者の声を聞き身体状態の観察し異常がないか、また気になるところがない確認報告することで情報を共有することで見過ごさないようにしている。	○	今後も、内部研修で事例等で学習していきたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や重要事項・運営規定等を説明する際分かりづらいところは、具体例をあげて説明し疑問などに丁寧に答えながらご理解いただけるように時間をかけて説明するよう心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご利用者とのふれあいのなかでご意見やご不満等を聞き取るように全職員で心掛け管理者へ報告し迅速に対応するようにしている。	○	全職員がコミュニケーションをとり些細なことでも迅速に対応している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	お一人様を除き、ご利用者の暮らしぶりは来所された時に、状態によっては随時電話で連絡をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱・公的な相談窓口のポスターを玄関に掲示しご家族からご意見等が出された時は、連絡ノートに記入し情報を共有すると共に会議等に対応策を話し合っって迅速に対応するようにしている。	○	日頃からご家族と連絡をとりながら”言いやすい関係”をつくっていききたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングで意見を出し合いできるだけ取り入れていくようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者やご家族の状況の変化に対し、管理者が勤務の調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個々の職務条件を考慮し勤務表を作成して職務条件の向上に努める。また、レクレーション等の機会を利用し1. 2ユニットの職員全員が全てのご利用者の状況を把握する為に情報の共有を行ってご利用者が混乱なく暮らしていける関係を築くように努力している。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集・採用に際して、性別・年齢等の制限を行っていない。面接時は、管理者とリーダーで行い、採用対象者の印象、話し方、身だしなみ、意欲を観察しながら話をして判断している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや朝礼で介護する側の立場でなくご利用者様の側からの視点で物事を考え声かけをし、お一人お一人がご家族にとってかけがえのない人であるという事、またふれあうことの大切さを話親しみから慣れ合いになり言葉使いが乱暴にならないように指導している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や事業者協議会主催の研修案内を置き奨励しているが本人の希望任せているため参加はなされていない。ミーティング時に外部より講師を招く事、資料を使っての内部研修を行っているが職員個々に合わせた研修計画は行っていない。	○	職員個々に合わせた育成計画を作成して行っていく。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接市や同市内のホームに運営上の相談、加盟している協議会のブロックの会合や研修に参加している。	○	ホーム間の相互訪問や親睦会を通じて意見交換をしていきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルームは、テーブルと椅子を置き職員が休憩時間にくつろぎ、職員間の親睦を図れるようにし、仮眠が出来るようソファをおいて自由に使用できるようにしている。また、勤務は可能な限り個人の事情に配慮して勤務表を作成している。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々に自己評価をしてもらい上司評価とあわせて個人の目標をたてもらいそれをもとに業務にとり組むようにしている。	○	個々の能力を伸ばすような場を設けられるようにしていきたい。
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前提の面接時にご入居のあたり本人のご希望や不安な事、ご家族のご希望や不安な事をお聞きし体験入居をしていただいたり入居時に馴染みの物を持参していただくなど安心して生活していただいている。	○	ご利用者、ご家族がどのような生活を望んでいらっしゃるのかご利用者、ご家族と一緒に不安なくホームで生活ができる
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での相談やホーム見学の際にホームでの生活の説明から利用時の不安な事やリスク、ご利用者・ご家族が困っている事やホームへの要望などお聞きしている。	○	ホームの運営方針など理解していただきホームでの生活で不明な点や不安な事など個々の事情などに配慮し出来るだけ柔軟に対応している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、いま必要とされるご支援をお聞きする課程で見極めてご利用者とご家族に対応したもので他サービスの利用もご案内するなど柔軟に対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から始まりホームに来ていただいたりホームの雰囲気を感じていただきご利用者、ご家族共に納得された後に体験入居していただきその時の様子を伝えている。ご利用者にはレクレーション等好きな事、得意な事を見つけそれを中心に交流をはかり他ご利用者となじめるように支援している。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時折自宅に帰りたいと涙されたり、現在のご自分自身の事を嘆かれたりされた時など職員はご利用者の話を聞いたりしてさしあげることによりいっそう距離が近くなり信頼していただき愚痴なども聞いていただけるようになった。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症の進行によりご家族にとって不安な事などが増えていくなかで管理者、職員はご家族と会話ををすることで不安や悲しみを理解し共にご利用者を支えるように支援している。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と離れて暮らしていらっしゃるのを電話を架けてさしあげて話をさせていただいたり名ryべくご家族と関わる機会をつくってさしあげるようにしている。	○	ホームページでホームの様子やご利用者の生活を伝えるようにしている。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム入所前から参加されていた地元の行事に参加できるよう同行、送迎したりご利用者、ご家族の希ご希望、状況に応じて近所のスーパーや車で20分程度の外出支援をしている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ趣味をお持ちのご利用者が趣味を通じての交流が出来るよう、また掲示物の作成などの共同作業でかわりを持つことが出来るように職員が声かけをして支援している。	○	ご利用者がどのようなことを思い、考えていらっしゃるのか会話の中で見つけていけるようにしていきたい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族のご事情で退所になった方を移られたところにかがいが様子をかがいに訪問したりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者とできるだけコミュニケーションをとり一人ひとりの希望や意向を受止めセンター方式を活用しながらその人らしい生活が送れるよう支援している。	○	希望や意向を伝えられない利用者本人の目線となり物事を捉えることが出来るように配慮している。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族より直接聞いたり会話の中から情報を得て職員で共有している。	○	センター方式を利用し利用者の今を見るだけでなく生活歴等を配慮した希望や意向の把握に努めていきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者一人ひとりについてカンファレンス等で話し合い現状の把握と情報の共有に努めている。	○	職員間で情報の共有するために個人記録や連絡ノートに記入し出勤時に各自が読んで仕事に入るようにしている。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員に現在の問題点や気づき等をだしてもらい介護記録にファイルして職員がいつでも閲覧できるようにしている。	○	ご利用者、ご家族、職員、看護師でアイデアをだしあいそれを基に介護計画を作成し職員全員で共有していく。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族との面会時に要望や意見が聞ける様、職員が積極的に声かけしている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・食事量・散歩・レクリエーション等ご利用者個人の状態を記入してある介護計画を計画の見直しにいかしている。	○	介護記録の情報を職員間で共有し記録を基に介護計画を見直し、評価していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整え、医師の週1回の往診や、看護師による健康チェック、提携機関の歯科医師、歯科衛生士の週1回の口腔ケアにきていただいている。また、緊急時の対応も提携医療機関に対応していただいている。また、必要に応じて専門医への紹介もしていただいている。	○	認知症の進行に応じて専門医との連携をとっていききたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者、職員参加の防災訓練に消防署より指導にきていただき訓練方法などの確認や注意点など指導していただいている。また、非常持出し袋に いい非常食、懐中電灯・ラジオ・小銭・救急箱等入れ、水も備蓄している。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	加齢と共に入れ歯が合わなくなったり、誤嚥の危険性が高まるうえで予防目的で歯科医師による口腔ケアを取り入れご利用者個々に応じてのケアを指導していただいている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市社協の職員の方に高齢者の権利擁護について話していただき高齢者が置かれている状況やどのような支援が必要なのかまた今後の課題は何か等を話をしていただいた。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員が事業所提携の医療機関で受診されているが、距離、ご家族の事情、ご利用者の状態に応じて職員が同行して受診していただいている。ご家族のい事情、希望により同行サービスもご紹介している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の講演会に参加した際や、受診時に相談し個々の対応の仕方などアドバイスをいただくようにしている。		認知症の専門医と連携してご利用者をご家族と共に支援していききたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を整え、看護師による訪問看護でご利用者個々の健康状態の把握、職員が相談しアドバイスをいただいたり医師に相談し対処していただきながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院した際、退院に向けて担当医、看護師、理学療法士と連絡をとり情報を受け退院後のホームでの生活支援計画などに役立っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年で2度目の看取りを経験した。今後も個々の状況などに応じてできるだけご利用者、ご家族の意向を踏まえて医師の判断など話し合う機会を持っている。	○	ご利用者の終末期に対して、ホームで出来ること出来ないことを明確にしご家族と話し合いをおこなっていききたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者の状態に応じて医師と相談しホームで出来ることは職員全員で行い出来ないことは医師・ご家族等に相談し協力しながら対応している。	○	重度化や終末期にむけてご利用者・ご家族の意見・意思確認・見極めなど医師、ご家族との話し合いをしながら対応していききたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご利用者・ご家族の事情等を考慮し、移り住む際の情報提供など行き退所ごとに訪問したり、手紙を出したりして関係を切らずにしている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者は人の先輩であるという尊敬を持ちご利用者と親しみ、慣れ合いからご家族と同じような言葉使いにならないように指導している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員はなるべく業務にご利用者を合わせるのではなく1日の流れの中でご利用者の意向を聞きながら個々のペースにあわせることを心掛けながら支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなど皆さんと一緒に参加するのが苦手な方は無理をせず、ご利用者本人がやりたい事をしていただけるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝、お化粧したいと話された方にはお化粧をす るお手伝いをしたり、ご希望で美容師にきていた だくなどしている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活 かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをし ている	ご利用者に食べたい物を聞き参考にしている。 出来る方には、下ごしらえを一緒にしたりして いる。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを 一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援して いる	ご家族からのお預かりした物をご希望に応じて お出ししている。また、ご利用者からのリクエスト に応じて手作りのお菓子をお出ししている。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排 泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支 援している	ご利用者個々の残存能力を生かした支援を行っ ている。状況の変化があった時は、その都度職 員で話し合い対応している。また、ご家族が来所 されたときにお話している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひと りの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入浴日を変更したり、入る順番や好みの温度な どできる範囲で楽しめるように心がけている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して 気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者個々の状態や希望に応じてお昼寝をし ていただいたり、馴染みの寝具を持ち込んで いただくなど個々ペースにあわせて安心して休 息をとっていただいている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援を している	川柳や塗り絵などの作品をホームの廊下に掲 示したり季節やイベントの飾りつけ等思い思い の物を作っていただくことや、浪曲わ得意な方 には、誕生日会などで披露していただくなど できるだけ個々に合わせた楽しみがもてる ように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口預かり金の中からお利用者のご希望を伝え了承のうえで買い物に同行したり、ご家族の代理で買い物に行くなど可能な限りご希望に添えるように支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近くの神社に散歩に行ったり、地域の祭りなどに体調を考慮しながらでかけるようにしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回ご利用者・職員との旅行にご家族もお誘いして思い出づくりが出来るようにと考え支援している。ホームで外出する際は、ご家族にも参加の呼びかけをしている。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族と電話で会話ができるように、ご利用者のご希望に応じている。また、手紙の代筆や代読など個々の状況に応じて支援している。	○	ホームページを活用してホームの活動やご利用者の様子をブログ等でお伝えしている。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご利用者のご家族、友人、知人等いつでもきていただけるようにしている。また、仕事等の都合で日中にこれない場合はあらかじめ連絡していただいて夜間の訪問などご家族の事情にも出来るだけ配慮している。	○	ご家族や知人の方にもホームの行事等に参加していただけるように声かけをしていきたい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で事例を挙げて身体拘束についての知識を高める研修を行い、全員で取り組んでいる。	○	さらに研修等で知識と意識を高めていきたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、施錠せず見守り重視としている。ご利用者のペースにあわせて見守りを行い安全に生活していただけるように職員全員で見守りを重視している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者の過ごされる場所の安全確認と巡回を昼夜通し行ううえで、居室に入るときはノックや声かけをするなどして、プライバシーを侵害しないように配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要なものは職員が管理している。また、工作などで使うハサミ等は、職員の見守りする中で使用していただいている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ご利用者個々の心身の状況に応じた方法で事故防止のための取り組みを行いご家族にも報告し理解を得るようにしている。事故発生時は、再発防止検討会議を行い迅速に対応するようにしている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応をマニュアル化しており急変時の対応が迅速に出来るようにミーティング等で確認している。	○	内部研修を通じて訓練を行っていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団に協力の依頼をし、近所の方にも避難誘導支援の協力を自治会長を通して依頼している。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族が訪問された時に、介護記録を基に気になる事、起こりえることやリスクに対しての説明をおこなっている。また、変化があればその都度ご家族に連絡し説明し、了承を得るようにしている。	○	担当を置きご利用者の状態の変化やリスクに迅速に対応できるようにしていきたい
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、体温・血圧・脈測定し体調の管理に役立てている。また、週1回の看護師に定期訪問だけではなく状態の変化や気になる事を相談し対応して指示をいただき対応している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者個々に調剤薬局より提供の説明書を入れたファイルを作成している。また、看護師・薬剤師と連絡をとり、服薬指導や・管理について指導していただいている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員全員で排便の有無を確認すると共に水分量にも注意している。排便確認困難な方には、排便確認カードを作成して排便があったときにはスタンプを押していただくなど確認に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・昼・夕食後に職員が介助し口腔ケアを行っている。また、週1回の歯科医師・衛生師による口腔ケアに来ていただき入れ歯の状態、口腔内の状態等見ていただいたり、アドバイスをいただいたりしている。	○	拒否の有るご利用者に対してのケアの方法等工夫していきたい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏食傾向の方や摂取量が少ない方は医師より処方された経口栄養剤で補うようにしている。また、水分摂取は三食の時以外でも10時、3時のおやつのおき入浴後、就寝前、排泄後など個々に応じて摂取できるように支援している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、計画的に予防接種をおこなっている。また、うがいや手洗い、場合によってはマスク着用を行う。口腔ケアを入念に行うようにしている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・まな板・布巾等は、毎日消毒し食材も毎日買いに行き新鮮な食材を使用している。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご利用者・ご家族・ご友人等が入りやすいように施錠せず自動ドアにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室にはご利用者と職員とで散歩のときに摘んできた花を飾ったりしている。また、季節ごとの行事やイベントにあわせての飾りつけをしている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者は、居室内では、馴染みの物を飾られたりしている。また、ご家族やご友人来訪時には過ごせるようにソファがおいてある。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にご家族のご希望があれば泊まっていたりすることも可能。また、ご利用者の趣味や写真を飾ったりして可能なかぎり好きなようにしていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日に数回換気を行い、冷暖房の強弱や温度調整を談話室・廊下・居室内をこまめにしている。また、居室内は個々に応じて調節できるように各居室にエアコンを完備している。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の廊下を利用し、歩行訓練をおこなったり、手するを使っての立ち上がり訓練などおこなっている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	排泄の失敗等、羞恥心から混乱したりしないようにさりげなく対応するよう心かけている。また、職員全員で情報を共有し出来るだけ自立して暮らしていけるように心かけながら支援している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ご利用者と職員と一緒に建物裏の花壇で野菜をつくったり、ベランダで日向ぼっこをしたりしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 ○ 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き生きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 ○ 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない